

「契約」を意味するヘブライ語「ベリート」は、もともと「切り刻む」という意味があるそうです。当時、契約をするときには動物を切り刻むという習慣がありました。また「契約を切る」といういい方にもその名残があるかもしれません。

旧約聖書の中には、契約という言葉が多く出てきます。中には人間相互のものや王と民、また部族間のものもありますが、一番重要なのは、神さまと人との間に交わされるものです。

例えばノアの洪水の後の虹は、神さまが「人間をもう滅ぼさない」と誓った契約です。この神さまだけが誓う契約を「片務契約」といいます。またイスラエルの民と神さまとの間で交わされたシナイ契約（出エジプト 19 章）は、「双務契約」といいます。この契約は、イスラエルの民はヤハウェを神とし、神はイスラエルを守るという双方の合意によって成り立っているからです。

さて、イエス様は最後の晩餐の場面で盃を取ったときに、「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」と言われました。イエス様の血によって、わたしたちの罪が贖われるという契約です。これは片務契約でしょうか。いいえ、違います。

なぜならこのイエス様の救いの業に対して、わたしたちは応答を求められているからです。「イエス様に従う」というわたしたちの意志がなければ、この契約は成り立ちません。つまりイエス様の十字架は、わたしたちと神さま双方が関わる双務契約なのです。

ちなみに新約聖書の「やく」という漢字は「訳」を用いません。新しい訳という意味ではないのです。新約とは新たな契約のこと、すなわちイエス様を通して、わたしたちと神さまとが新しい契約を結んだということが書かれた書物という意味です。

次回は「ゲツセマネ」です。お楽しみに。



「最後の晩餐」

アンドレア・デル・カスターニョ

1421～1457 年

そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」

(マルコによる福音書 14 章 24 節)

